

演題番号：

乳用牛にみられた筋肉内の腫瘍形成を主徴とする牛白血病

○万所幸喜、田中優子、種子田功

京都府中丹家保

1. **はじめに**：京都府内で発生した牛白血病ウイルス（BLV）の感染による成牛型牛白血病は、病変の好発部位や腫瘍細胞の形態がほぼ同様であったが、最近、従来と異なる症例が散見される。今回、従来の成牛型牛白血病と病変部位等が異なる一症例を、リンパ球マーカーを用いた腫瘍細胞の検索による牛白血病の分類について検討した。2. **発生状況**：発症牛はホルスタイン種、雌、74 か月齢。右側頭部が拳大に腫脹し、右眼球の充血と瞬膜の露出を認めた。後に、全身に腫瘍が増生し急激に大型化したため、血液検査所見とあわせて牛白血病を疑い、病性鑑定を実施した。3. **検査成績**：(1)血液検査：白血球数 7,600 個/ μ l（リンパ球 83%、異型率 15%）、BLV 抗体陽性。(2)剖検所見：腫瘍の形成は全身の筋肉に認め、特に右側の頭頸部から前軀にかけて顕著であった。右側頭部から耳下、顎下、頸部等の筋肉の複数箇所に腫瘍を形成し、右側頭筋はほぼ腫瘍性の異物に置換していた。胸腔では、肺の間質および心臓の左右心耳に多数の白色結節と心膜の肥厚を認めた。腹腔では、第四胃壁の肥厚と漿膜面に拳大の腫瘍を認め、骨盤腔内では空腸腸間膜リンパ節の腫大と子宮外口付近にウズラ卵大の腫瘍を複数認めた。(3)組織所見：心臓、肺、腎臓、第四胃、膈、右下顎部腫瘍、右頸部筋肉内、左肩胛骨下筋肉内に、中型で粗剛な核と少量の細胞質を有するものと、中～大型でやや多型の不規則な核と少量の細胞質を有するものの2種類の腫瘍細胞による浸潤増殖像と、これら腫瘍細胞が主座する顕著な腫瘍性増殖像を認めた。また、腫瘍細胞の増殖巣周囲にマクロファージが散在的に認められた。リンパ球マーカーを用いた免疫組織化学的検査を実施したところ、各組織中の腫瘍細胞は類似する結果が得られ、CD79 α 陽性、CD5陰性、CD11b陰性、CD3陰性およびTdT陰性であり、B2細胞由来のリンパ球の特徴を有していた。4. **結論**：臨床検査等を含むこれらの検査結果から、成牛型牛白血病（組織診断名：B2細胞由来リンパ腫）と診断した。一般的な成牛型牛白血病はB1細胞由来とされているが、本症例はリンパ球マーカーを用いた腫瘍細胞の検索により、比較的稀なタイプであることが判明した。今後も主要病変部位等と腫瘍細胞の形態やリンパ球マーカーとの関連性についての症例数を重ね、牛白血病の病理組織学的な分類に資するよう努めたい。